

ナビゲーションスポーツ×地域おこし ～ “矢板東高校ロゲイニング大会” やってみました～

栃木県立矢板東高等学校 リベラルアーツ同好会 地理研究班
江崎萌音 曾川凜 長島日花 村上実沙樹

【要旨】

矢板市の地域活性化の方策として「ロゲイニング」というスポーツに着目し、その可能性について研究した。実際の大会への参加や、チェックポイントにどのような場所が設定されているかの分析を踏まえて、矢板市を舞台にしたロゲイニングの大会を、校内イベントとして企画・運営した。チェックポイントの選定においては、矢板市のどこに触れてほしいかを考え、歴史的・地理的なスポットや観光名所などをチェックポイントに設定した。この研究を通して、ロゲイニングは地域活性化に十分な効果があり、地域の魅力を再発見できるコンテンツとして有用であるということが実感できた。

【苦労した点など感想】

フィールドワークが不可欠な研究であるが故、感染症流行下での活動にはたくさんの懸念があった中、無事に“大会”を開催することができて本当に嬉しかったです。参加者と企画者の両方の視点からロゲイニングを経験し、その魅力や作成の苦労を知ることができました。様々な可能性を秘めたロゲイニングの魅力を、大勢の方々には知っていただけたらと思います。

【受賞の喜びコメント】

まさか、私たちがこのようなすばらしい賞をいただけるとは思っておらず、驚きと喜びでいっぱいです。3年間この同好会で活動してきた集大成となる、思い入れがある研究だったので、自分たちの研究を認めていただけたことが本当に嬉しいです。また、この活動を支えてくださった多くの方々には本当に感謝しています。ありがとうございました。



審査員からのコメント

本作品は、ロゲイニングというスポーツを自身の地域で実践し、今後の地域おこしの可能性について言及している。この作品が高く評価された理由は次の2点である。1点目は、高校の授業で知った「ロゲイニング」というスポーツを、実際に自分たちで体験し、その他の大会についての詳細なリサーチが行い、最終的に自身の地域で実践した点である。2点目は本大会が地域の観光促進に可能性を持っている点である。作品でも触れているが、ポイント調整によって、訪れてほしい観光スポットや観光ルートを誘導できる点や、チェックポイントのデータを解析することで、将来の観光政策を考える上で重要な提案を行うことができるかと推察される。

